

研修機関	医療法人社団扇寿会 介護老人保健施設 なでしこの丘
研修期間	平成16年10月12日～12月11日
所属・氏名	松任市立松任小学校 竹村 尚子

## I 研修目的

- ・学校現場を離れて多くの人と接することにより、社会的視野を広め、自分を見つめ直す機会とする。
- ・介護の現場を体験することにより、高齢者福祉についての見識を深める。

## II 研修内容

### 1 一階療養室での研修（10月12日～22日，12月10日）

- ①湯茶配り、エプロン等の準備、食事の配膳、食事介助、投薬の介助
- ②トイレへの誘導、排泄介助、おむつ交換の補助
- ③入浴用品（タオルや着替え）の準備
- ④お風呂への誘導、衣類の着脱介助、ドライヤーでの整髪
- ⑤シーツ交換、爪切り、口腔ケアの補助
- ⑥レクリエーション
- ⑦声掛け、会話、見守り

### 2 二階療養室での研修（10月25日～11月5日，12月9日）

- ①湯茶配り、エプロン等の準備、食事の配膳、食事介助
- ②排泄介助、おむつ交換
- ③ベッドから車椅子へ（車椅子からベッドへ）の移乗
- ④入浴用品（タオルや着替え）の準備
- ⑤お風呂への誘導、入浴介助、衣類の着脱介助、ドライヤーでの整髪
- ⑥シーツ交換、爪切り、口腔ケアの補助
- ⑦レクリエーション、行事への参加（誕生会）
- ⑧声掛け、会話、見守り

### 3 グループホームでの研修（11月8日～19日，12月8日）

- ①入居者の居室の清掃、食堂・廊下等の清掃、シーツ交換
- ②食事の準備、後片付け、おやつの準備と片付け
- ③衣類やタオルの洗濯、洗濯物たたみと仕分け
- ④入浴用品（タオルや着替え）の準備
- ⑤お風呂への誘導、衣類の着脱介助、ドライヤーでの整髪
- ⑥移動の補助、爪切り、血圧の測定
- ⑦レクリエーション、散歩への誘導、行事への参加（県庁の見学・運動会）
- ⑧声掛け、会話、見守り

### 4 デイサービスでの研修（11月22日～12月7日）

- ①利用者の座席カードの配置、ティッシュ・コップ等の準備
- ②利用者の出迎え、コート等の預かり、お茶出し、名札付け
- ③お風呂への誘導、衣類の着脱介助、ドライヤーでの整髪

- ④移動の補助、爪切り
- ⑤レクリエーション、行事への参加（誕生会）
- ⑥声掛け、会話、見守り
- ⑦利用者宅への送迎、利用者宅でのベッドへの移乗
- ⑧翌日の利用者用の名札・座席カード・カルテの準備

## 5 合同カンファレンス・施設内研修への参加

### III 研修成果

<ひとりひとりに合わせて>

なでしこの丘では、病院に入院して治療をするほどの必要はないが、家庭で日常生活を送るには看護・介護が必要な方に対しての支援が行われていた。介護の必要な方と言っても、何を必要とするかはひとりひとりの方の症状によって様々であるため、本人・家族の要望をもとに施設サービス計画書が作られ、それをまた本人・家族の方に見てもらいサービス内容を決定していくという手順が取られていた。サービス計画書には、生活全般において解決すべき課題は何か、その解決に向けての長期の目標・短期の目標、そのために必要な具体的サービス内容や気をつけることなどが示されていた。そして、食事の内容（ご飯かお粥、普通食・きざみ食・ミキサー食）、食器の工夫（スプーン使用）、飲み込みやすくする工夫（お茶にとろみを付ける）、入浴の方法（一般浴・椅子型の機械浴・ベッド型機械浴）、リハビリの内容などそれぞれの方に合わせてきめ細かな対応がとられていた。目標は定期的に評価が行われ、見直しがされていた。さらに、各フロアでの情報交換の時間には、体調や行動面で気がかりなことについて意見を出し合い検討がなされていた。入所者・通所者の方にとって何が適切なのかを常に考え、日々温かく接しておいでする職員の方の姿勢に感心させられた。

<情報の共有>

ひとりひとりの方への細やかな対応を継続していくためには、職員の連携がとても大切になる。職員の方の勤務体制は、早番・日勤・遅番・夜勤などに分かれているため、各フロアでの情報交換の時間のほかに、次の勤務の方への引継ぎがその都度行われていた。入所・通所されている方ひとりひとりについてのカルテが用意されており、健康状態（排泄の様子・体温・血圧・食事や水分摂取の状況など）だけでなく、どんなふうに過ごしておいでたか、変わった様子はなかったかなどについて担当の職員の方が常に記録し、みんながいつでも見て情報が共有できるように工夫されていた。このカルテは、日頃デイケアを利用しておいでる方がショートステイされる場合には、一階または二階フロアの職員へと引き継がれており、それまでの記録がきちんと生かされていく体制がとられていた。朝の申し送りには各フロアみんなが集まって施設全体での情報交換が行われ、その他に毎週行われる合同カンファレンスでは、各委員会からの提案についての検討などがなされていた。勤務体制がいろいろあるためその場にはいない職員にも情報がきちんと伝わるように、記録ノートの活用や各フロアでの連絡が行われていた。みんなが同じ情報を共有することで、施設全体としての姿勢が徹底し、入所者・通所者の方に対しても同じ意識での対応がなされていく。情報を共有することの大切さを実感した。

<見守ることの大切さ>

今まで介護の現場に接することがなかった私は、困っている方がおいでたら、私にできることを何かしてあげなければという思いでいた。しかし、その考えは少し違う

のだとだんだん気づいてきた。

テーブルの端につかまり何度も立ったり座ったりを繰り返している方がおいでたので、慌てて行って体を支えようとしたところ、「なあん、これもリハビリや。」と、笑って答えられた。私は、立ち上がれず困っておいでると思い込んでしまったのだが、その方にとっては、自分の考えでしておいでたことだったのだ。

人間誰でも高齢になれば、一つ一つの動作に時間がかかるようになり、今までできていたことがうまくできなくなったりもする。それでも、自分の思いで、自分の力で、自分のペースでしようとするのを、できなくて困っているとこちらの勝手な判断で何でもしてあげることが、本当の支援ではないのではないか。研修期間中「見守る」という言葉をよく聞いた。その方の思い、その方のペースでしておいでることが、たとえ時間がかかっても、多少うまくいかなくとも見守っていき、本当に必要としておいでることは何かを見極めていくことこそが大切だと気づかされた。

<家庭や地域とのつながりの中で>

なでしこの丘には、職員の方の他にボランティアの方も多数おいでて、食事の介護や、趣味の時間（編み物・手芸・はり絵・カラオケなど）のお世話、週二回の喫茶コーナーなどで入所者・通所者の方と接しておいでた。看護・介護の支援だけでなく、こうした方々と会話をするだけでも、心のケアになっているように感じた。

毎月の誕生会の他に年に2回「家族会」も開かれ、舞踊や演奏の公演・職員の方々の出し物などがあって、単調になりがちな入所者の方の生活の中での楽しみになっている。

また、「地域の保健室」として、子育てサークルや育児相談が定期的に施設内で行われたり、近くの小学校の児童が劇などの発表に来てくれることもあるそうだ。高齢化社会を迎える中で、地域社会全体で行われていくこれからの福祉のあり方の一面を見ることができたように思う。

#### IV 今後の課題

学校現場と老人介護施設。研修に入る前は違う分野のように感じていたのだが、2か月間の研修を終えた今、子どもであっても高齢者の方であっても、人と人が接することの根本は同じなのではないかという思いを強く持った。

老人介護施設は確かに介護サービスを提供する場ではあるが、適切な看護・介護をしていく為にも、コミュニケーションをとりお互いの信頼関係を結ぶことが大切なのだと、入所者・通所者への職員の方の接し方を見るにつけ感じられた。このことは、学校においても同じだと思う。子ども達ひとりひとりの思いを見つめながら人間関係を築いていくこと、そして保護者の方との信頼関係を結んでいくことを大切にしながら、また新たな気持ちで取り組んでいきたいと思う。

介護のことについて何も知らなかった私に対し、大変忙しい仕事の中でいろいろと教えて下さった職員の方々には、大変感謝しています。本当にありがとうございました。介護の現場に接することができただけでなく、多くの入所者・通所者の方、そして職員の方々と出会えたこの2か月は、私にとって貴重な経験となりました。